バリアフリートイレ。災害時、さまざまな人が利用することを想定して、オストメイトに対応した設備の他、ベビーシートやベビーチェアを設置した。

旧学校活用トイレ事例 04 改修

## 愛知県丹羽郡大口町

# 大口北防災センター

## 体育館を地域の防災拠点に改修 避難所ならではの工夫が随所に

### 子ども用のトイレから誰もが使えるトイレに

2022年、愛知県丹羽郡大口町の旧大口北小学校の体育館が、新たな防災拠点「大口北防災センター」として生まれ変わりました。

一般的に、避難所の多くは、地震や洪水、大規模火災などが発生した際に、市町村の職員がその場に駆けつけ、鍵を開けるなどして避難所を開設します。しかし、その流れでは、実際に避難所が立ち上がるまで、どうしても時間を要してしまいます。

そこで、大口北防災センターでは、災害が起きたときに備えて、地域の人々が施設の鍵を持ち、解錠することで、避難所開設までの時間を大幅に短縮することを目指しました。現在は「大口町北地域自治組織」の方々が運営を行っています。通常時の施設は、運動教室が開催されるなど、地域開放の場として利用されています。

小学校の体育館を防災センターへ改修するに当たり、トイレ整備も実施されました。これまで、主な利用者は子どもだったことから、一つひとつの大便器ブースは大人が使用するには狭かったといいます。床は湿式、便器は和式でした。

「防災施設なので、新たにバリアフリートイレを設置しました。施設のそばには、公衆トイレもあります。避難の際はそちらも使えることを加味し、便器の数を減らして、個室をゆったりと取りました」

そう話すのは、大口町地域協働部町民安全課の稲葉悠斗さんです。

バリアフリートイレには、オストメイトに配慮した設備や、ベビーシート、ベビーチェアを備えています。男女別トイレの個室の一つには、子どもと一緒に入ったり、着替えをさせたりすることを想定して、ベビーチェアとフィッティングボードも設置しました。

今回の改修で、床を乾式化し、便器も洋式に変更しました。手洗いは、自動水栓です。防災センターという観点から、トイレの床も男女で色を変え、視認性を高めています。施設内には、災害時の利用に備えて、更衣室も用意しました。屋外には、マンホールトイレも

男子トイレ。明るい光が差し込む。手前の小便器には手すりを設けた。

防災センター館内。通常時は柔道教室などに利用されている。

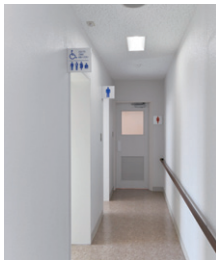
屋外にある公衆トイレ。ベンチの下にはビニールシートが備えられている。非常時、屋根にセットするだけで、仮設テントが完成する。

非常用発電機。停電時も、3日分の電気が供給できるようになっている。

男子トイレ個室内。男女別トイレの個室の一つには、ベビーチェアとフィッティングボードも設置。

防犯カメラと、ビニールカーテンで仕切る際に利用する金具。

ベンチにも仕掛けが施されている。カバーを外せば、災害時の炊き出し用かまどに早変わり。



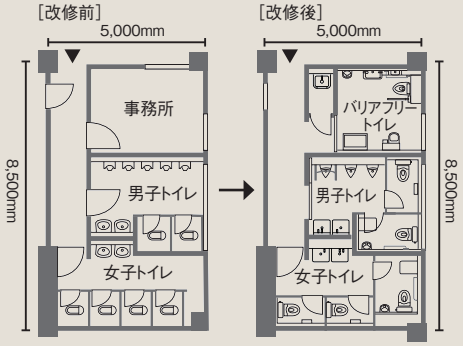
バリアフリートイレと、男女別トイレ入り口。サインはシンプルで、明瞭なデザインに。

女子トイレ手洗い。感染症対策の観点から自動水栓に。足元には荷物棚も。

## 大口北防災センター DATA

名　　称：大口北防災センター
所　在　地：愛知県丹羽郡大口町城屋敷1-308
施　　主：大口町
設計・監理：斉木建築事務所
施　　工：松岡建設 大口営業所
竣 工 年 月：2022年3月

●大口北防災センタートイレ




バリアフリートイレは、もともと事務所があった場所に新設した。

女子トイレ個室内。ベビーチェアとフィッティングボードの他、手すりを備えた。大便器はすべて温水洗浄便座。

左から稲葉悠斗さん（大口町地域協働部町民安全課）、川橋朝次さん（大口町北地域自治組織理事）、藤田金生さん（大口町北地域自治組織会長）、吉田治則さん（大口町北地域自治組織事務局長）。

準備されています。

トイレ以外にも、救急車が来た際に、車を横づけで停められる救護室や、感染症が発生した際に、館内をビニールカーテンで区切れる装備や防犯カメラが設計されています。旧大口北小学校の面影を残すためにも、体育館のステージは取り壊さず、携帯トイレやマスク、消毒液などの備蓄倉庫として活用しています。

大口町北地域自治組織で会長を務める藤田金生さんは語ります。

「運営が始まって、まだ1年目です。地域の方にとって、どのような施設が利用しやすいのか、防災について、どう啓発していくのがよいのか、今後も検討していきたいと思います」